

「人間ではなく天の父によって」

(マタイによる福音書 16 : 13-20)

「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」という主イエスの問に、「あなたはメシア、生ける神の子です」とペトロは信仰告白しました。そのペトロを主イエスは祝福し、確固とした揺るぐことのない岩だと、言われました。ご受難の前、主イエスのことを三度も「知らない」と拒むことになるペトロを「岩」だと言われたのです。主イエスは人間としての資質を問題にされているのではないからです。神によって目が開かれ、主イエスを神の子として見て、知ることができた、そして信仰を告白することができたからこそ、主イエスはペトロを祝福し、神とともにある者として「岩」だと言ったのです。

ペトロの信仰告白は、彼が学問や修行のすえに勝ち取ったものではありません。「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしたちの天の父なのだ」と主イエスが言われるように、主イエスを「神の子」とであると告白する信仰は、人間ではなく天の父によるものです。人間の知恵や知識を頼りにしても、まことの信仰告白は成し得ません。人々は主イエスのことを、エレミヤやエリヤなどの再来だと言っていました。なぜなら、自分の知識や経験の「枠」の中でしか、人は物事を理解できないからです。ペトロのように、神によらなければ、人はその「枠」から出られません。今日の福音の最後で、主イエスはご自分がメシアであることを口止めします。なぜならそれは、ユダヤ人たちが抱いていた力強い解放者としてのメシア像との誤解を避けるためです。真のメシアは十字架上で死に、復活する方です。しかし、人間的な思いではそれはわからないのです。主イエスは、人がいかに「枠」から出られないかをよくよくご存知であるからこそ、口止めをされたのです。それほどに、わたしたち人間は自らの思いや考えから出られません。そしてそこに留まったままでは、目の前に主イエスがいても気が付かず、どんなに神の恵みが注がれていても感謝することができません。だからこそ、「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」ということの主イエスは言われたのです。今日の使徒書でパウロが言うように、「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えない」ということを忘れてしまうなら、主イエスからも、神の恵みからもわたしたちは離れてしまうのです。

ペトロに与えられた鍵によって天は開かれています。自らのうちに留まるのではなく、天に目を向ける時、主イエスはわたしたちを限りなく祝福してください。たとえペトロのように何度転んでも、何度でも主イエスは迎えてくださいます。わたしたちの目が開かれ、常に天の国の希望を与えて下さる主を仰ぎ見つつ、歩むことができますように。